

報告書

「日本と中国・韓国の意識調査アンケート」

経済学部 3 回生

伊藤 潤 1233030006 - 8

辰巳 忠嗣 1233030045 - 9

岡田 恒河 1233030018 - 1

笹原 秀則 1233030033 - 5

1 :【はじめに : 今回の調査の目的】

今回、私たちが取り上げたテーマは日本の大学生を対象とした日中・日韓の関係についての意識調査である。その目的は以下の2つである

- ・日本の大学生はどれほど日中・日韓問題について感心があり、どれほどの知識があるのか。
- ・近い将来、日本を背負って立つ私たちがこれらの問題を少しでもよりよくしていくことは可能なのだろうか

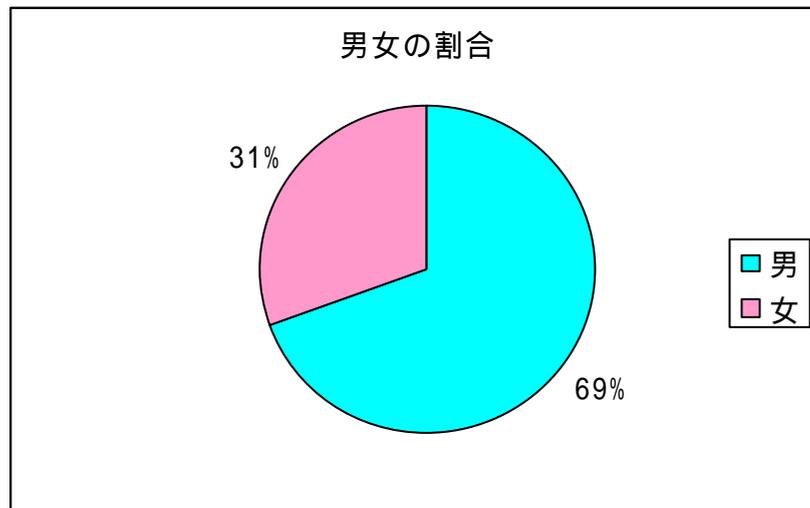
2 :【アンケート概要】

調査日時 6月23日～6月27日

調査場所 立命館大学BKCキャンパス内

調査対象 立命館大学生

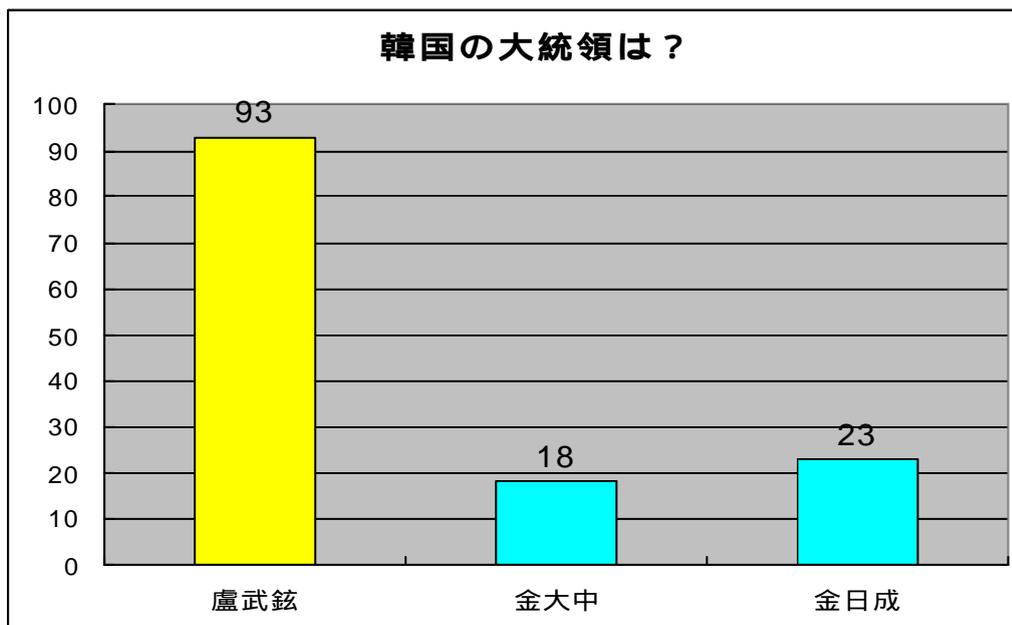
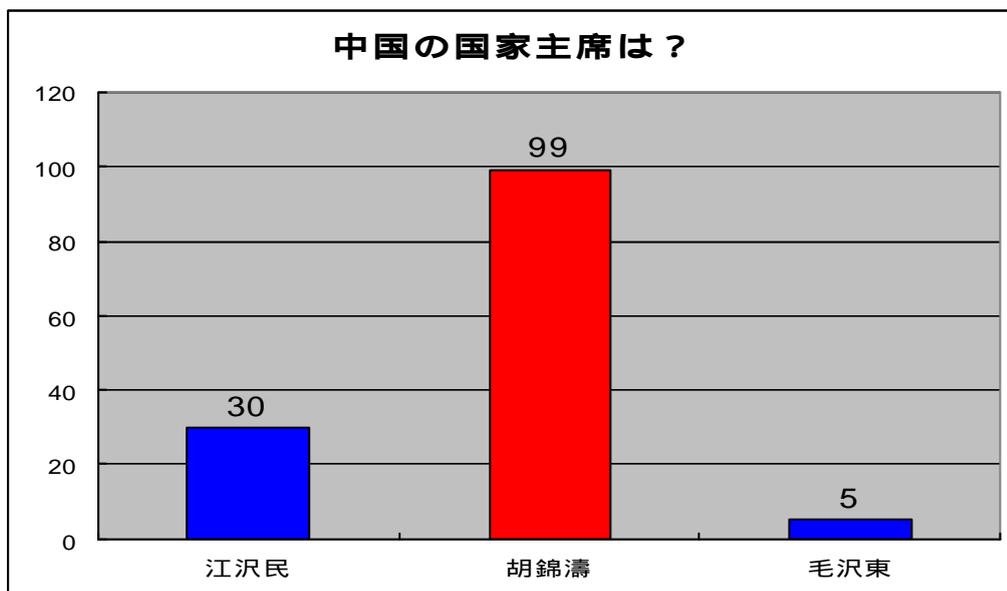
有効回答数 134枚



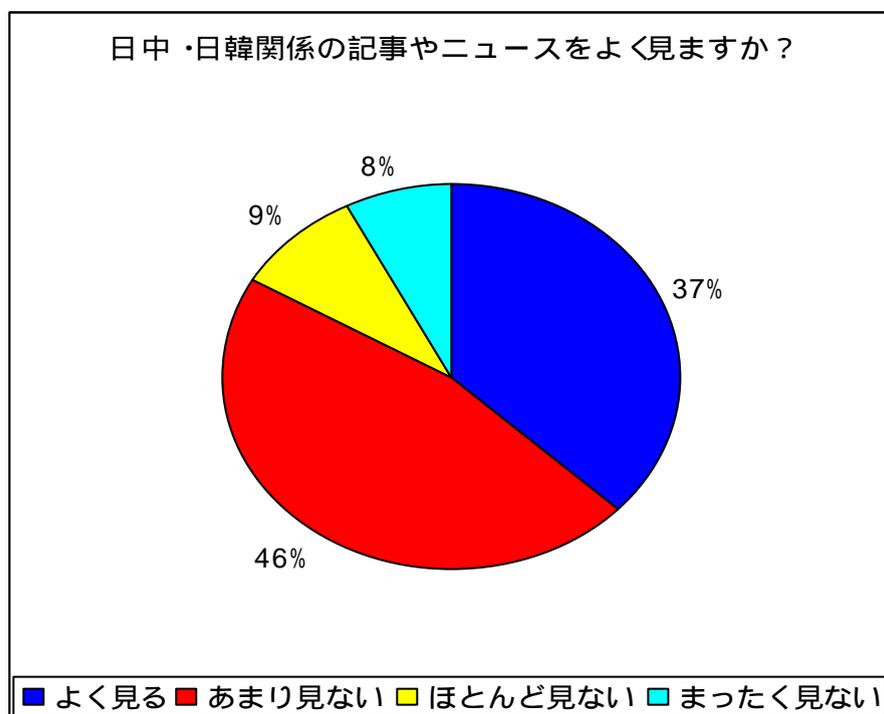
3 :【アンケート結果から見る考察】

中韓に対する基礎知識から見えること

今回のアンケートの最初に果たして今の大学生がどれほど中国、韓国についての基礎的な知識を持っているかの把握するために私たちは中国・韓国の国家主席及び大統領を答えることができるかどうかを3択問題にして掲載してみることにした。無論、中国の国家主席は胡錦濤、韓国の大統領は盧武鉉であるが国家主席の正解者は134人中99人(約74%)、大統領の正解者は93人(約69%)という結果が出た。自分たちの一番近隣の国のトップの人間を以外にも知らない大学生が多いということがわかる。



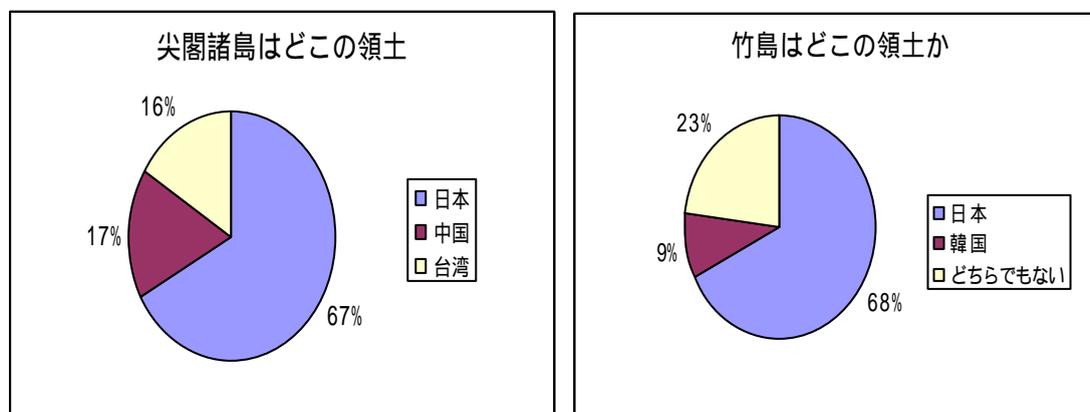
しかし、その次の「あなたは日中、日韓関係のニュース・記事を見ますか？」という質問をしたところ以下のような結果が見られた。

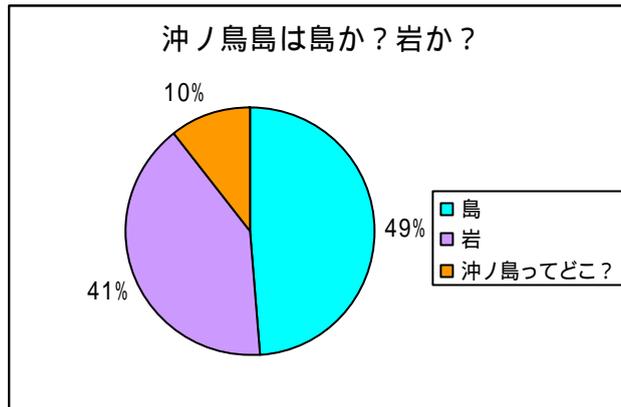


「よく見る」と「あまり見ない」を合わせると83%にのぼり、大半の学生が多かれ少なかれこの種の記事を目にしているということになる。このことから日本の学生は基礎的な知識に乏しいまま日中韓の間の問題の記事を読んでいるということになる。

領土問題について

次に領土問題についてであるが私たちは竹島と尖閣諸島は一体どこの国の領土であるか、そして、日本最南端の島とされるが中国との領土問題が発生し、波の浸食などにより沈没の問題を抱えている沖ノ鳥島についても果たして島といえるのかどうかということを見てみた。結果は以下のとおりである。

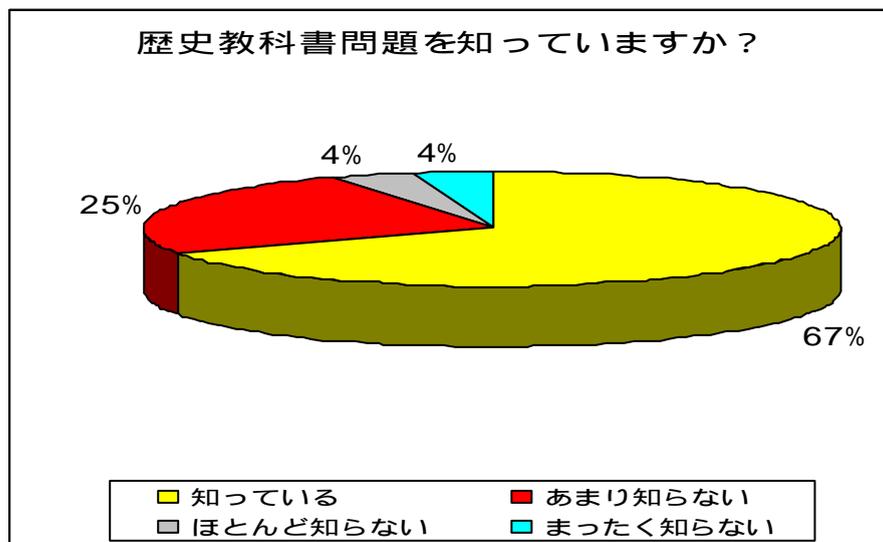




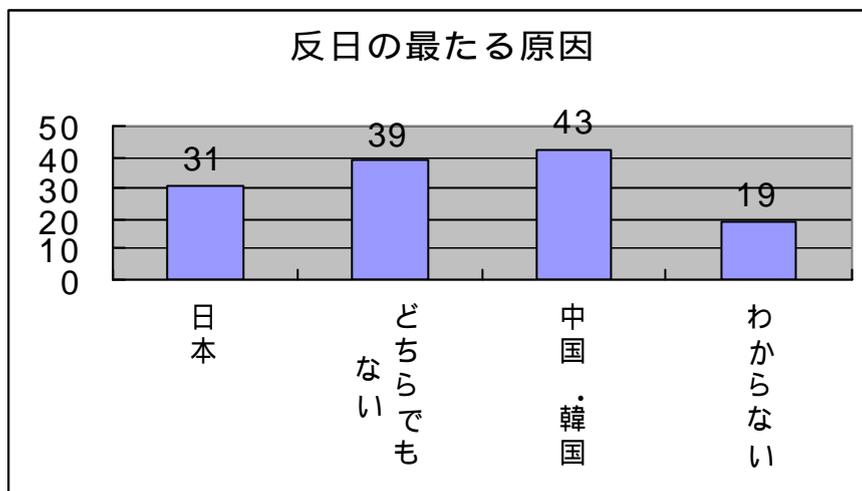
この結果を見ると竹島や尖閣諸島についてはおよそ 70%が日本を領土と主張しているのに対して沖ノ鳥島はほぼ 50%と意見はちょうど半分に分かれた結果となる。さすがに沖ノ鳥島に対してはその現状などから判断が難しいということであろうが前者の結果についてはやはり日本の主権にもかかわることであるので日本の領土を主張する人は多いということなのであろう。

歴史問題と反日デモについて

おそらく今回の調査でその関連項目が一番多かったと思われるのが歴史問題であったと思われるが、やはり日中・日韓の問題がメディアで取り上げられるときはおそらくは大半がこの問題についてであると思われる。「あなたは歴史教科書問題を知っていますか？」と問われて「知っている」と「あまり知らない」に 90%超を回答が集まっていることからこの歴史問題を少なくとも何らかの形で知っているということになり日中・日韓関係の中でも中心となる問題でありおそらく一番関心も高くなっているのではないかと考えられる。

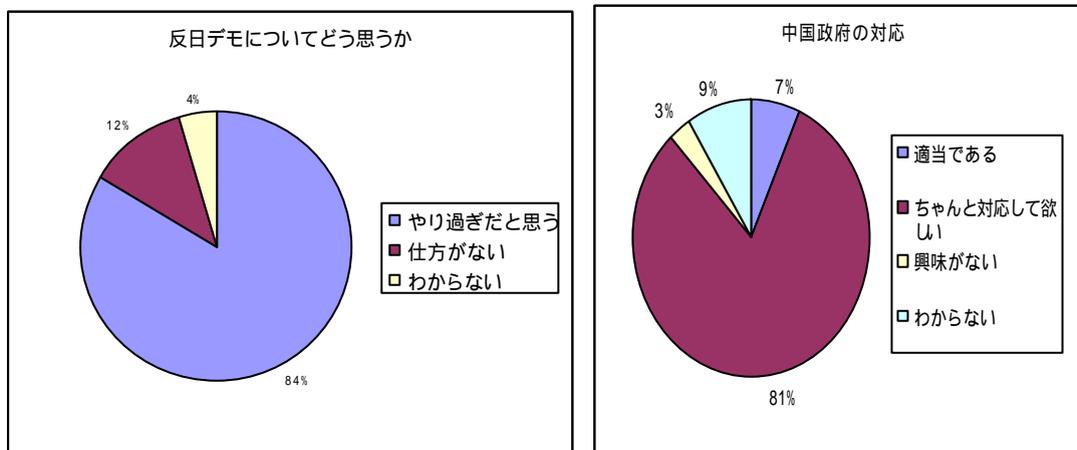


そういったこともあってのことなのだろうか。「中国・韓国の反日世論の最たる原因は何だと思いますか？」という質問に対しても「歴史問題」と第2次大戦中の問題を秘めた「靖国参拝」に回答が集中した。



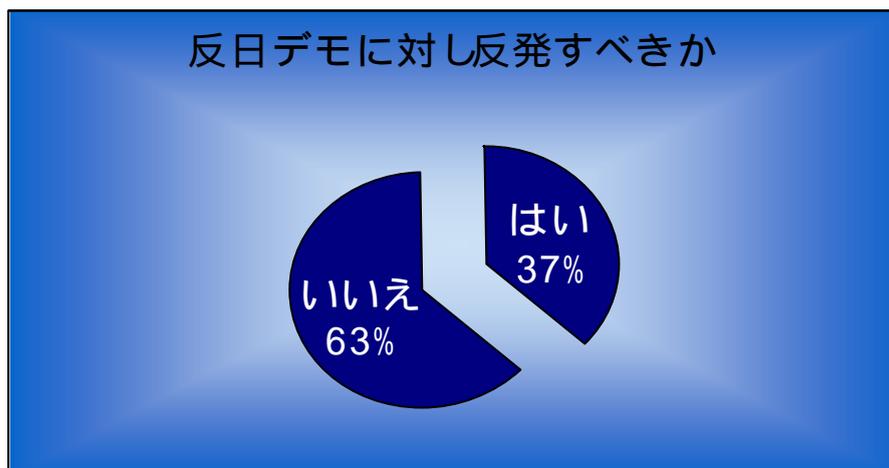
単位は「人」

では、ここで少し話題を変えてみよう。次の2つのグラフを見ていただきたい。これは「あなたは中国の反日デモについてどう思いますか?」、「反日デモによる中国政府の対応についてどう思いますか?」というアンケートをとったところの回答集計の結果である。



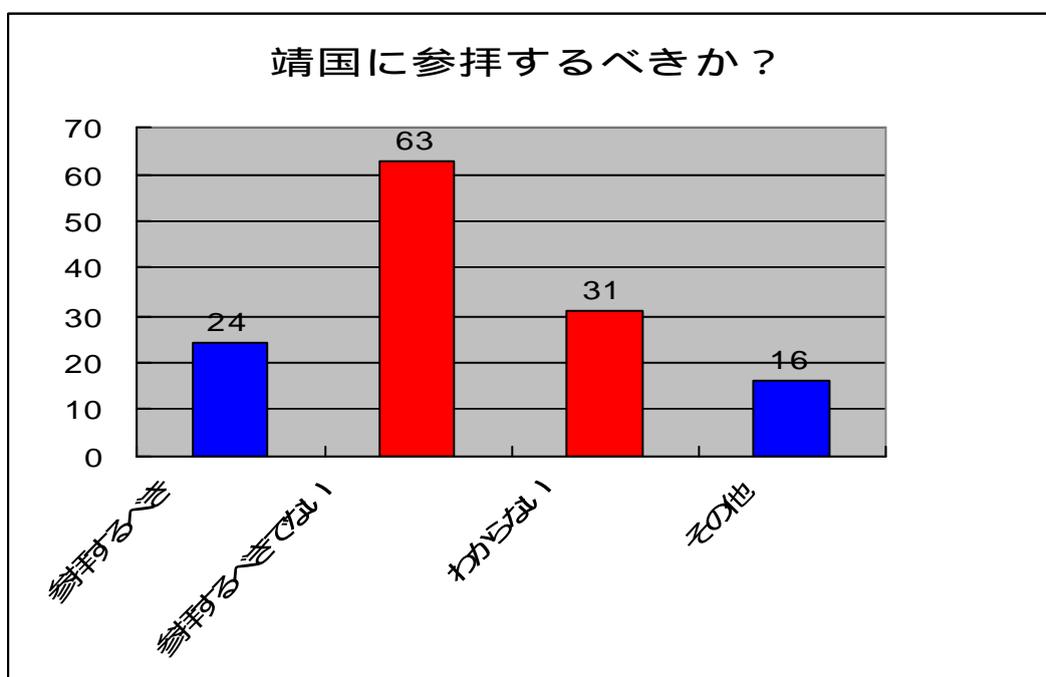
ご覧の通り前者では84%が「やり過ぎだと思う」後者では「ちゃんと対応してほしい」に81%の回答が集まっている。

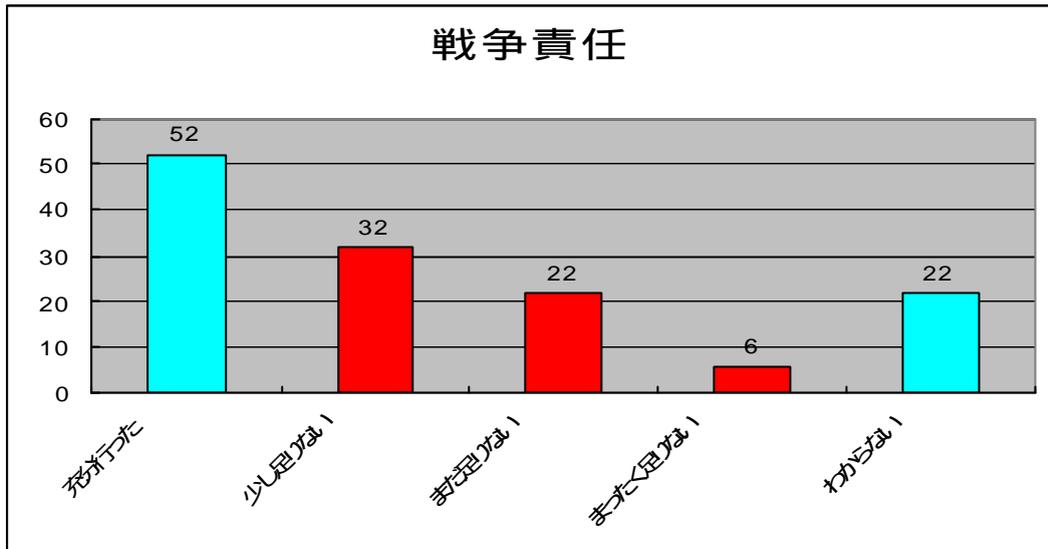
では次に「中国・韓国の反日デモに対し、日本国民は反発すべきだと思いますか?」に「はい」か「いいえ」で答えるという質問に対する回答集計の結果を見ていただきたい。



このように彼らは反日デモに対して決してよい印象を持っていないにも関わらずその行為に対して反発しようという意志はあまり見られないのである。

これらの結果から結論として日本の学生は反日デモに関してやり過ぎだという考えをもち異常であるとは感じているものの、その原因が過去の戦争などの歴史問題が背景にあるあるということを十分認識しているために一方的に中国・韓国を批判することはできないのではないかとということが予想されるのである。事実、小泉首相の靖国神社参拝問題や戦争責任に関しては否定的な意見が多数を占めている。





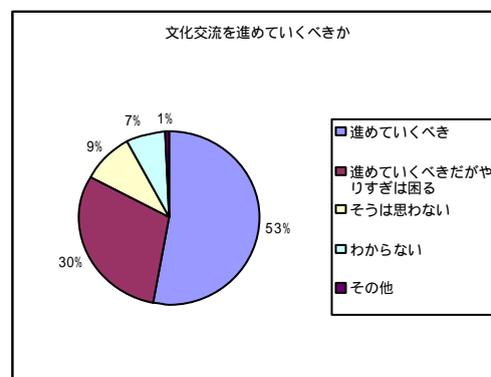
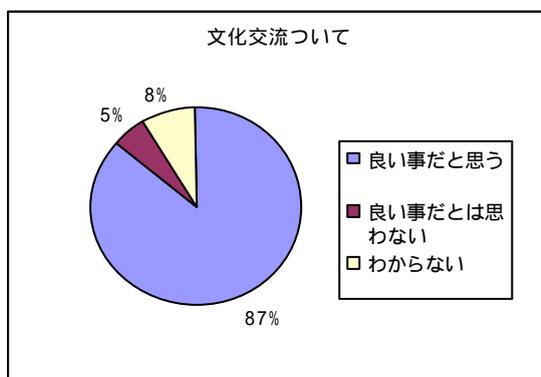
2つとも単位は「人」

4 :【アンケート結果から見る考察】

先ほどの考察 までで私たちは日中・日韓問題のその今現在の存在する問題や現状についての意識調査結果と考察を行ってきたがここからは今後の日中・日韓関係の展望を予想することを目的としていくつかの質問を行った。この結果に基づいて考察を行ってきたい。

文化交流について

「お互いの文化交流はいいことだと思いますか?」「今後もお互いの国の文化交流(韓流ブームなど)をもっと進めていくべきだと思いますか?」という質問をした結果前者では87%が「良いことだと思う」と回答し、後者の質問でも80%以上の学生が進めていくべきであるとの見方を示している。このようにたとえ今の関係が必ずしも上手くいっていないかったとしてもこういった文化交流を行うことを悪いと考えている学生はきわめて少ない。

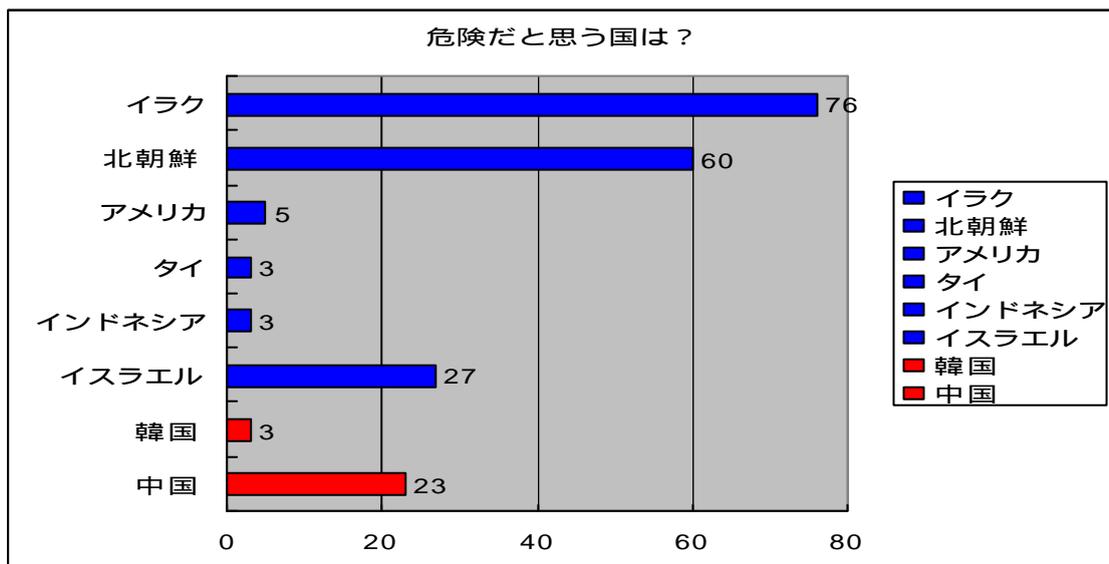


あなたが危険だと思う国は？

次に「現在、あなたがもし、行くとしたら危険だと思う国はどこだと思いますか？」という質問複数回答可で行ったところの結果を見ていくと 1 位と 2 位はダントツでイラクと北朝鮮であった。北朝鮮は納得できるとしても、イラクは日本にとって直接的になんらかの被害を与えられた国ではないのにもかかわらずこのような結果がでている。

それに比べて実際に反日デモによって被害にあわれた日本人がいるにもかかわらず韓国と中国を危険な国だと判断した学生は前者と比べて極めて少なく彼らは国際的に問題がある国に票を投じていることになる。

少なくともこの 2 つの考察の結果から言えることは日本の学生たちは中国・韓国は国際的に問題のある国であるとは思っていないということ。そして中国・韓国という国そのものを、しいては中国人・韓国人を嫌っているというわけではないと考えられるのである。



【まとめ】

今回の調査によって、このように日中・日韓の文化交流について大半の学生が前向きな態度を示しており、これからも彼らは文化交流に期待していることが伺える。しかし、上述したとおり歴史問題や領土問題、反日デモをはじめとした外交上の問題は山積みとなっており依然状況は厳しいと考えられる。しかし、日本の大学生の日中・日韓関係の良好化への期待度は高いことは明らかである。

このように若干の知識不足は見受けられるものの中国・韓国についての意識度は決して低いものではなくこれから日中・日韓関係の良好化を担っていくこととなる私たち日本の

大学生が社会に出て行く前から積極的に中国・韓国の学生との交流を行っていくことが大切であり将来に向けての問題の解決は十分に可能であると考えられるのである。